

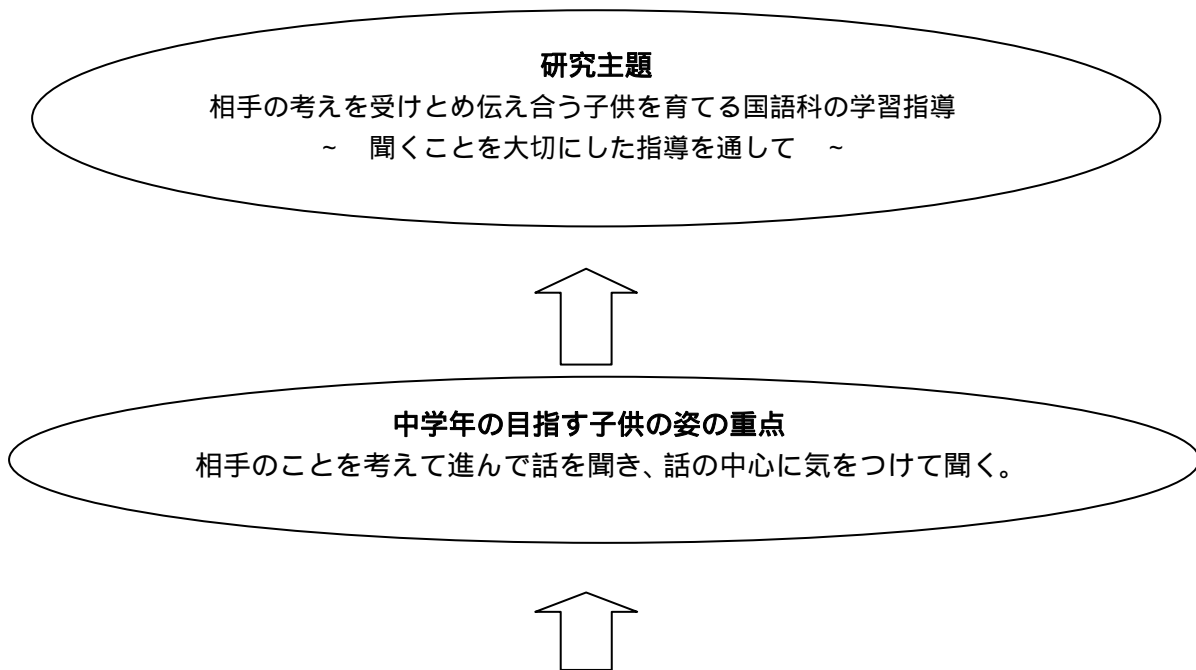
# 第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成16年11月2日(火) 6校時  
 児 童 男8名 女3名 計11名  
 指導者 小山田 誠 幸

- 1 単元名 心に残る発表会をしよう  
 教材名 十さいを祝おう

## 2 単元について

- (1) 子供の実態と研究主題との関連



本単元を通して身につけさせたい力		
話 す	聞 く	話 し 合 う
順序や構成を考えてスピーチする。	自分の考えや感想をまとめながら聞く。	話題からずれないで、興味をもって進んで話し合う。

子 供 の 実 態		
話すこと	聞くこと	話し合い
伝えたい相手や伝えたいことを明らかにして話す。 話の中心を明らかにして話す。 順序や構成を考えてスピーチする。	自分の経験や考えと比べながら聞く。 順序や要点、中心、話の組み立てを意識しながら聞く。 自分の考えや感想をまとめながら聞く。	グループ内で役割を分担して話し合う。 話題からずれないで、興味をもって進んで話し合う。 複数の発言の共通点や相違点を区別して聞きながら話し合う。

(3) 単元について

<p><b>児童について</b></p> <p>子供たちは、4年生になって、「無人島でくらすとしたら」では、グループで役割を分担しながら、複数の発言の共通点や相違点を聞き分けながら話し合うことを学習してきた。また、「電話で約束」では、話の中心を明らかにして話すことや、要点をメモしながら聞くことを学習してきた。</p> <p>日常的な子供たちの様子は、この年代にありがちな自己中心性をもちながらも内弁慶なところがあり、緊張感が伴う場になると、自分を十分に表現できなくなる傾向が見られた。そのため、授業場面においては、子供たち同士のつながりのある発言や感想を伝えることを重視してきた。その結果、以前に比べて自分の考えと相手の考えを聞き比べた意見を述べたり、教室掲示している基本話型を使って話したりできるようになってきた。しかし、相手の考えを自分の考えに取り入れ、自分の考えや感想を深めていくところまでは至っていない。また、聞く観点が複数になると整理しきれない場合が多い。</p>	<p><b>聞くことについて</b></p> <p>3年生から、まっすぐに話し手を見て聞くこと、最後まで話を聞くことを聞く態度の目標として取り組んできた。また、相手の話に関連した発言ができるように、自分の考えをもつことやそれと比べながら聞き合うことに気をつけてきた。</p> <p>4年生になり、話の中心に気をつけて聞くことを話すこととともに、大切にしてきた。そのため、国語の時間はもちろん、他の教科や学級活動、朝や帰りの会等でも関連させて指導してきた。</p> <p>しかし、分からないことを進んで質問することやメモを取りながら聞くこと、そして、思ったことや感じたことを整理しながら聞くことについては個人差が見られ、これまでの教材等では十分に力を身につけられなかった子供もいる。そのため、立場を代えて意見をまとめたり、観点に沿って聞いたりまとめたりすることが大切だと感じている。また、聞き上手な子に向けて「聞き分ける」「聞き合う」ことの話型の定着を目指している。</p>	
<p><b>教材について</b></p> <p>本教材は、十歳という人生の節目を迎えた子供たちに過去を振り返らせつつ、これからの自分の生き方について考え、その思いをスピーチという形で発信するものである。</p> <p>発表会の計画の取り組みでは、司会者と参加者による話し合いの学習をする。司会を交代しながら、グループ単位での話し合いを取り入れ、学級全体での話し合いをしていく。発表会に向けたスピーチの練習では、話すことの学習を積んでいく。原稿メモをもとに聞く観点に沿ってアドバイスを受けながら練習する。発表会では、感想をまとめながら聞くことの学習が中心になる。自分を評価したり相手を評価したりして感じたことも大事な学習になる。</p> <p>このように、本教材は一人一人の思いや願いを伝え合う会を開くにあたり、一貫して音声言語の能力を向上させることをねらいとした教材であり、聞き手にとっては、自分の考えや感想をまとめながら聞くのに、適した教材といえる。</p>	<p><b>自分の考えや感想をまとめながら聞く。</b></p>	<p><b>指導にあたって</b></p> <p>本単元は、まず、子供たちが、生まれてからの十年間に誇りをもてるようにしたい。そのため、教科書の挿絵や吹き出し、小さい頃の写真や親からの手紙などを有効活用しながら、学習意欲を高めていきたい。また、司会者の役割を整理しながら、小グループの話し合いの中で、司会者の経験を積ませ、参加者になった場合にも司会者の立場に立って考えられるようにしたい。</p> <p>発表会では、聞き手の参加が必要である。聞き手に大切なことは、真剣に相手の話を聞き入れようとする心である。よい聞き手がよい話し手をつくると言われており、スピーチ練習は、同じグループやそのグループ内のペアを学習形態の基盤として考えてみたい。そして、一人の成長をみんなで喜び合えるようにしたい。また、メモを取らせ、そのメモを見ながらコミュニケーションをはかれるようにもしていきたい。話すことや聞くこと、話し合うことの技能の向上は、他者による評価を中心に、関心・意欲の高まりは、自己による評価を中心に単元全体で見していきたい。</p>

### 3 単元の目標と評価規準

	目標	主目標	副目標
	目標	評価規準 (B)	
関・意・態	「十さいを祝おう」という気持ちを大事にして、楽しい発表会を開くためにすすんで話し合おうとする。 自分の成長を振り返り、思い出や夢などを話そうとする。	「十さいを祝おう」という気持ちを大にして、祝う方法をすすんで発言しようとしている。	「十さいを祝おう」というめあてをもち自分の思いや願い、決意などを話そうとしている。
聞話くすことと・	自分の考えが表れるような話題を選び、聞き手に伝わるよう、構成を考えたからスピーチすることができる。(ア) 友達のスピーチについて、自分の感想をまとめて伝えることができる。(イ)  発表会の実現に向けた学級の話し合いに参加することができる。(ウ)	自分の考えが表れるような話題を選び、制限時間の中で組み立てを考えてスピーチしようとしている。	友達の思いや願いについて中心に気をつけながら内容を聞き取り、感想を伝えている。 話の中心に気をつけ、話し合いをしている。
言語事項	場に応じた適切な音量や速さで話することができる。(ア(ア)) 相手や場に応じた、丁寧な話し方をすることができる。(カ(ア)) 「賛成・反対・付け加え」などの言葉を知り、発言するときに使うことができる。(エ(ア))	場に応じた適切な音量や速さで話している。	相手や場に応じた丁寧な話し方をしている。 「賛成・反対・付け加え」などの言葉を使って発言している。

### 4 学習指導計画 (13時間: 話・聞13)

過程	時	学 習 活 動	指導上の留意点	具体的評価規準 (B) と 評価方法
つかむ	1	自分の十年間やこれからのことを発表しよう。  教材文を読み、自分の十年間を振り返る。	・これまでに乗り越えてきた苦しかったことや大きな喜びなど家族やかかわった人からの手紙をもたせ、その頃の写真も用意させ、発表できるようにさせておく。(相手意識、目的意識)	手紙や写真などをもとに自分の成長や歩みを簡単に発表している。(話・聞) [発表の様子を観察]
	2	学習計画を立て、自分たちの発表会のタイトルを決める。 心に残る 発表会をしよう。	・計画を書き込ませ、学習をふり返られるワークシートを用意する。 ・自分たちの力で進めさせて、記念の会になることを意識させ、みんなの意欲がわく名前をつけさせる。	記念になることを意識し、発表会の名前を決める話し合いで、意見を出している。(話・聞) [話し合いを観察]
追求する	3	話し合いで気をつけることは何だろう。 発表会に向けた話し合いをするために、議題と話し合いの進め方を決め、気をつけることを確認する。	・司会を経験して困ったことを尋ねながら、司会の仕方や話し合いへの参加の仕方について気をつけるべきことを考えさせる。	これまでの話し合いを振り返る発言をしている。(話・聞) [発言内容の分析]

	4	<p>司会の仕方に気をつけて、一人一人司会の経験をしてみよう。</p> <p>発表会の内容をグループで話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日時、会場、プログラム、スピーチの時間、スピーチのテーマ、招待する人、スピーチ以外の出し物、役割分担などを議題に1議題1司会者で話し合わせる。</li> </ul>	話し合いの注意点に気をつけながら司会を務めている。(話・聞)[司会の仕方の観察、振り返りカードの分析]
	5・6	<p>すすんで意見を出して話し合いに参加しよう。</p> <p>発表会の内容を学級全体で話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言者や司会者が気をつけることを「学習の窓」で確認してから話し合いに入らせる。</li> </ul>	「賛成」「反対」「付け加え」の言葉を発言の際に使っている。(話・聞)[話し合いの観察]
	7	<p>テーマを決め、スピーチの組み立てを決めよう。</p> <p>スピーチのテーマを決め、構成を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書記は教師が担当する。</li> <li>「はじめ」「なか」「おわり」の3つの構成でスピーチの組み立てを考えさせる。</li> </ul>	伝えたいことを明確にし、事柄のまとまりを意識してスピーチを組み立てている。(話・聞)[ワークシートの分析]
	8・9	<p>四百字程度のスピーチ原稿を書き、スピーチメモにまとめよう。</p> <p>スピーチ原稿を書き、スピーチメモにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチの時間(1人1分ぐらい)に合わせ、読んだ字数を確かめさせる。</li> <li>スピーチ原稿を要約させ、一つのをまとまりを20字ぐらいにさせる。</li> </ul>	伝えたいことを規準にあった文章量でスピーチ原稿やスピーチメモにまとめている。(話・聞)[原稿とメモの分析]
	10本時・11	<p>アドバイスをしあいながらスピーチの練習をしよう。</p> <p>友達同士で聞き合い、練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチ内容へのアドバイスを修正・追加・順序の変更等で生かしていけるようなカードを用意する。</li> <li>モデルと「学習の窓」を使ってスピーチの大事な事を確認させ、小グループ内でペアをつかって練習させる。</li> </ul>	スピーチの内容や順序を修正しながら練習している。(話・聞)[練習の観察と評価カードの分析] 聞いている人に体を向け、メモをあまり見ずにスピーチ練習している。(話・聞)
まとめる	12 + 学活 1	<p>発表会をしよう。</p> <p>発表会を開く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチの様子をビデオ撮影しておいたり、感想カードを用意したりして、次時の振り返りに利用する。</li> </ul>	聞いている人のほうを見ながら、適切な音量や速さでスピーチをしている。(話・聞)[スピーチの観察・ビデオ分析]
	13	<p>発表会をふり返り、感想を交流しあおう。</p> <p>発表会をふり返り感想をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオや感想カードを見ながら感想を述べ合い一人一人のよさを認め合わせる。</li> <li>認定証を授与する。</li> </ul>	発表会を振り返り、感想や意見を出し合っている。(話・聞)[発言内容のチェックや感想カードの分析]

## 5 本時の学習

(1) ねらい アドバイスを生かし、自分の思いや願いが相手に伝わるように、スピーチ内容を選び構成を考えてスピーチすることができる。

(2) 授業仮説 アドバイスの観点に沿って、小グループで聞き合ったことを生かしながらスピーチ練習をし、振り返りの場面で観点に基づいた評価をすることで、よりよいスピーチになるであろう。(仮説2)

### (3) 展開

段階	時間	学習活動	指導上の留意点	具体的評価規準と評価方法
つかむ	3分	1 本時の学習課題を確認する。 アドバイスをしあいながらスピーチの練習をしよう。	・前時の学習内容を指名しながら確かめたあと、学習計画を見ながら本時の学習内容を確認める。	
追求する	10分  25分	2 アドバイスのしかたを理解する。 (1) 学習の窓で「スピーチで大切なこと」を確かめる。 (2) スピーチ練習のためのモデル(VTR 前時のもの)を提示し、全体でスピーチの内容や構成へのアドバイスをする。  3 アドバイスをしたり受けたりしながらスピーチ練習をする。 (1) 小グループ内で一人ずつスピーチをする (2) 小グループ内でスピーチをした人に観点にそって質問やアドバイスをする。(問いかける) (3) アドバイスを生かし、一人一人スピーチの修正や練習をする。 (4) 再び小グループ内で一人ずつスピーチする。 (5) 小グループ内でスピーチへのアドバイスをする。	・スピーチで大切なこと ・会場の広さなどを考え、聞いている人全員によく伝わる声の大きさや速さで話す。 ・メモはなるべく見ないで、聞いている人の方を向いて話す。 ・聞き手の心に残る、自分らしい出来事や体験を選んで話す。  ・アドバイスの観点 くわしくした方がいい内容はないか。(もっと詳しく話したほうがいいのかはありませんか。) 初め、中、終わりがよく分かったか。(初め、中、終わりの組み立てはよく分かりましたか。)  ・(2)では、グループ内から受けたアドバイスに沿ってスピーチを振り返らせ、スピーチメモの内容を修正させたり、順番を入れ替えたりさせる。 ・(5)では、(2)で受けたアドバイスに沿って、その変容を指摘させる。 ・録画の準備をしておく。	A アドバイスをもとに、スピーチの内容や順序などを修正し、話し方も意識しながらスピーチしている。 B アドバイスをもとに、スピーチの内容や順序などを修正しながらスピーチしている。 C 受けたアドバイスを一つずつ生かすように教師や友達といっしょに修正させる。 [練習の観察と評価カード]
まとめる	7分	4 学習を振り返り、発表会への意欲をもつ。 (1) 自己評価をする。  (2) 次時の予告をする。	・録画したモデルの変容を確かめた後、スピーチの観点に沿って自己評価させる。 ・アドバイスを受けての感想を発表させる。	

## 6 板書計画

すごく良くなった  
〔カード〕

よくなった  
〔カード〕

分かったか。  
初め、中、終わりがよくないか。  
くわしくした方がいい内容はないか。

アドバイスをしあいながら、  
スピーチの練習をしよう。

アドバイスのこと

心に残る発表会にしよう  
十さいを祝おう